

会議状況等報告書	報告者	森田
----------	-----	----

会議の名称	令和4年度第1回大府市多文化共生推進委員会
-------	-----------------------

日時	令和4年6月2日(木) 18時00分～18時45分	場所	市役所205会議室
----	---------------------------	----	-----------

出席者	推進委員	松宮 委員長	大嶋 委員	岡田 委員	竹内 委員	嘉無木 委員	二村 委員	永田 委員				
		○	○	○	○	○	○	○				
	事務局	山内 副市長	信田 部長	田中 課長	小林 係長	CIR ケビン	森田					
		○	○	○	○	○	○					

内 容 (要点記録)

司会：田中課長
 議事進行：委員長
 傍聴人：なし
 (敬称略)

1. 市長あいさつ

2. 委員長、副委員長の選出
 委員長に松宮委員、副委員長に大嶋委員が選出された。

3. 委員長あいさつ

4. 議題

(1) 大府市の外国人数の現状
 (委 員) 小中学校の日本語教育が必要な児童生徒数について、北山小の取出し指導が必要な児童数は9名とのことだが、県からの日本語指導担当教諭の配置は10名が基準の目安と伺ったように記憶している。教諭の配置がなくなったようなことはないか。
 (委 員) 配置は継続されている。他に市の日本語・母語指導員も派遣している。

(2) 大府市多文化共生推進プラン3行動計画の令和3年度実績および令和4年度計画と参考資料
 (委 員) プレスクールについて、市国際交流協会(以下「OIA」という。)の事業計画にも含まれているが、保護者向けの案内文書では連絡先が市となっている。プレスクールの管理をするのはどちらになるのか。
 (事務局) 市とOIAが協働して実施する。主に運営面はOIA、保護者への案内等対応は市という役割分担をしている。管理をするのは市である。
 (委 員) どのくらいの申込みがあったのか。また、全10回はどんな内容を予定しているか。
 (事務局) 年長児と年中児を対象としており、早めに周知するため3月に保護者向け案内文書を配布した。2園で9名の申込みがあった。内容は、前半は日本語指導、後半は学校のことを中心に行う方向で調整している。
 (委 員) プレスクールは非常に大切で重要な事業であると思う。前々からこのような事業が実施されるとよいなと思っていた。
 (事務局) 就学をフォローするとともに、小学校での日本語初期指導とも連携していきたい。
 (委員長) プレスクールについては過去から委員会でもご意見に挙がっており、外国人総合窓口など、これまで大府市が積み上げてきた事業の上に成り立ったものであると認識している。

(委員) プレスクールは今後も継続していく方針か。

(事務局) 事業の実績を見ながら来年度も実施できるよう調整していきたい。

(委員) このような事業は継続していくことが大切であると思う。

(委員) 開催場所は保育園となっているが、幼児教育保育課とは連携しているか。行動計画の「関連課」に幼児教育保育課を記載してはどうか。

(事務局) 幼児教育保育課とも調整している。関連課に記載する。

(委員長) プレスクールの要綱などは策定しているか。教室の中身はどこが主体となり作っているのか。

(事務局) 要綱は策定していないが、教室の内容は市とOIAとアドバイザーが連携して検討している。

(委員長) 今後、保育園だけでなく幼稚園などに拡大していく可能性や、現状大府市内には存在しないようだが外国人学校等への展開も考えられることを踏まえると、市として継続できるような仕組みを整えていただくとよいのではないかと思う。

(3) 外国人向けコミュニケーションボードの作成

(委員) 本ボードは電子タブレットを用いて市役所等の窓口を訪れた外国人市民に見せるのか。

(事務局) 電子ではなく、ラミネート加工した印刷物となる。市職員と来庁者の両方が指差しして使用する。

(委員) 全庁的に配布をするのか。

(委員) いつ配布するのか。

(事務局) 全庁的に配布する。9月に配布する目標で準備している。

(委員) 店舗用はどのような場での活用を想定しているか。

(事務局) 小売店等を想定している。市公式ウェブサイトに電子データを掲載し、事業所等が自由に印刷して使用できる形とする。商工労政課とも連携して事業所等へPRしていく。

(委員) 病院の受診を支援するようなボードがあるとよいかもしれない。

(事務局) 病院受診とは少し異なるが、高齢障がい支援課が、障害のある方向けの災害時用のコミュニケーションボードの作成を予定しており、その内容に外国人向けの視点も盛り込んでもらう予定である。

(委員) 病院に行く前に、そもそもどの科に行ったらいいかが分からないことがあるようだ。

(委員長) 今後の課題として、市内医療機関を紹介する資料など作成するとよいのではないか。

(委員) 外部機関も医療機関向けのコミュニケーションボードを作成しており、無料で活用できるようだ。

(委員長) 看護師の養成カリキュラムが変更となり、1年生の段階から外国人対応について学ぶようになっている。本ボードについても、作成したものを実際に活用できるよう、使い方などの紹介をするとよい。

(4) ウクライナ避難民の方への支援

(委員長) 住宅にかかる支援についてはどうなっているか。

(事務局) 避難民の方のうち2世帯に市営住宅へ入居いただいている。

(委員長) 今後、自治会等の支援も必要になるのではないか。東日本大震災の際、避難をされた方への支援として課題となっていた。自治会にかかる言語面や自治会費等の支援が考えられる。これまで市が行ってきた翻訳はウクライナ語の蓄積がないため、今後検討が必要となるかもしれない。

4. その他

(1) 次回委員会の開催について

令和5年2月13日(月) 16時から開始

以上